

ザンビア政治・経済月報(2015年9月)

主な出来事

【内政】

- ・14日, 選挙民登録作業が開始。
- ・18日, 第11ザンビア国民議会・第5会期開会式が行われた。同開会式において, ルング大統領はスピーチを行った。
- ・24日, ソルウェジ西選挙区及びルバンセンシ選挙区において国民議会議員補欠選挙が実施され, UPNDが1議席, PFが1議席獲得した。

【外政】

- ・24日から10月1日にかけて, ルング大統領は国連総会に出席するためニューヨークを訪問。

【経済】

- ・7日, ルアンシャ・コッパー・マインズ(中国系 CNMC)はバルバ鉱山を操業停止状態にさせ, 約1640名の労働者に休暇が付与される予定となっている。
- ・モパニ・コッパー・マインズは, ザンビア鉱山労働者組合(MUZ)に対し, 電力コストの上昇, ザンビア政府による付加価値税の未還付ならびにクワチャ安を背景として, 鉱山労働者4000名強を解雇する旨通告した。
- ・格付会社ムーディーズは, ザンビアの格付を格下げした(当館注: 同社からの発表は25日; 政府債が「B1」から「B2」に格下げされた)。

* PF: 愛国戦線(与党), MMD: 複数政党制民主主義運動(第1野党), UPND: 国家開発統一党(第2野党)

* タイムズ、デイリーメールは国営。ポスト、デイリーネーションは民営。

【内政】

- ・1日, ザンビア警察カサマ警察署はムワンバUPND副党首に対し職務質問を行った。(2日, タイムズ, メール, ネーション)
- ・5日, キリスト教連合はザンビア政府の憲法改正に関するアプローチを支持する旨発言。(6日, メール)
- ・8日, チャンバ・バレー野営地において, ナショナル・サービスに対する4億クワチャ相当の重機の供与式典が行われた。同式典にはルング大統領が出席した。(9日, タイムズ, メール, ネーション)
- ・8日, ルサカ空港において, ムワンバUPND副党首の外交旅券が押収された。(9日, タイムズ, メール, ネーション)

- ・9日、ザンビア警察ルウィング警察署はムチェレカ・ルバンセンシ選挙区補欠選挙UPND候補者に対し職務質問を行った。(10日, タイムズ, メール, ネーション)
- ・14日, 選挙民登録作業が開始。当該作業は来年3月31日まで続く予定(第1段階は9月14日から11月11日まで)。選挙管理委員会は170万人の国民に対して新たな選挙民登録を行い, 登録選挙民の合計が680万人になることを目標としている。(15日, タイムズ, メール, ネーション)
- ・15日, ザンビア警察ウッドランズ警察署はマセボ国民議会議員(元観光芸術大臣), UPND党員を公共秩序法に反してデモ行進を行ったとして逮捕した。16日, マセボ議員等は保釈された。(17日, タイムズ, メール, ネーション)
- ・18日, 第11ザンビア国民議会・第5会期開会式が行われた。同開会式において, ルング大統領は, 「スマートなザンビアを目指して, 今から我々の文化を変えていく(Embracing a transformational culture for a smart Zambia now)」とのテーマのもとスピーチを行った。(19日, タイムズ, メール, ネーション)
- ・19日, ズル政治事項担当大統領特別補佐官はクリスマ・ホテル(ルサカ市内)において, エノック・カビンデレJr氏(エノック・カビンデレ元副大統領の子息)と口論となり, 同氏を脅し, 2回発砲した(同氏には特段の怪我はなかった。)(20日, ポスト)
- ・24日, ソルウェジ西選挙区及びルバンセンシ選挙区において国民議会議員補欠選挙が実施され, UPNDが1議席, PFが1議席獲得した。(26日, タイムズ, メール, ネーション)
- ・25日, ズル特別補佐官はザンビア警察ウッドランズ警察署に出頭し, 同日, 恐喝容疑及び火器使用に際し予防措置をとらなかった疑いにより逮捕された。また, 同日夜, ザンビア警察はズル特別補佐官の自宅の家宅捜査を行った。26日, ズル特別補佐官は保釈された。(27日, タイムズ, メール, ネーション)

【外政】

- ・24日から10月1日にかけて, ルング大統領は国連総会に出席するためニューヨークを訪問。(10月1日, タイムズ)

【経済】

- ・Cargill 社及びザンビア産業開発公社(IDC) は, ザンビアの農村部における小規模な製粉所設立の議論にかかる覚書(MoU)に署名した。(1日, メール)
- ・フランスの製薬会社であるPharma Development社は, 総額1500万米ドルの医薬品製造工場の建設を計画しており, 工場の完成後に製品の流通が開始となる。(4日, タイムズ)
- ・本日7日, ルアンシャ・コッパー・マインズ(中国系CNMC)はバルバ鉱山を操業停止状態にさせ, 約1640名の労働者に休暇が付与される予定となっている。(7日, タイムズ)
- ・Woodgate Holdings社は, Wagh Group(イタリア系企業)と, 鉄道の枕木等の製造会社の設立にかかる覚書(MoU)に署名した。両企業間で約1500万米ドルの投資が調印され, 新企業の設立

によって、300名が新規雇用が予期される。(7日、メール)

- ・ザンビア政府は、財務省所有の国営企業33社中のうち、29社の株式をIDCに譲渡した。(10日、メール)
- ・ルング大統領は、ルアンシャ・コッパー・マインズによる操業停止及びバルバ鉱山の労働者に対する休暇付与の決定を撤回するよう命じた。また、シャメンダ労働社会保障大臣は、ルアンシャ・コッパー・マインズによる労働者への休暇付与に関する決定は違法であり、労働法に抵触している旨発言した。(10日、タイムズ、メール)
- ・カンブウィリ政府主要報道官は、ルアンシャ・コッパー・マインズが労働者に対する休暇付与及びバルバ鉱山の操業停止の決定を撤回しない際は、同鉱山のライセンスを停止する旨警告した。(15日、メール)
- ・モパニ・コッパー・マインズは、ザンビア鉱山労働者組合(MUZ)に対し、電力コストの上昇、ザンビア政府による付加価値税の未還付ならびにクワチャ安を背景として、鉱山労働者4000名強を解雇する旨通告した。(15日、ポスト)
- ・ルング大統領は、ザンビア及びジンバブエが、バトカ・ゴージ(南部州)の1800メガワットの発電所の開発(総額40億米ドルが投資される見込み)の可能性を検討すべくパートナーとなった旨発言した。(19日、タイムズ)
- ・ザンビア電力公社(ZESCO)は、総額1億5400万米ドルのペンスローカサマ間電力送電線(330キロボルト(KV))プロジェクトを開始した。同プロジェクトは、ルアプラ州及び北部州の電力供給を改善すべく計画された。(19日、タイムズ)
- ・昨週のルサカ証券取引所の取引高は、取引された株式数の増加により、2週間前の6万クワチャから100万クワチャ超へと増加した。(24日、メール)
- ・ルアンシャ・コッパー・マインズは、ルング大統領に対し、電力不足ではなく、銅鉱石の品質低下を背景として、同社がバルバ鉱山の操業再開及び労働者の呼び戻しを実施しない旨伝えた。(24日、ポスト)
- ・ザンビア政府は、ザンビアの農家が小麦の国内需要を満たす能力を有していると述べたうえで、小麦の輸入を即時禁止した。(25日、メール)
- ・25日、第70回国連総会出席中のルング大統領は、ザンビアが貧困層に配慮した(pro-poor)成長に向けた課題に取り組み、かつ、人的資本の改善を実現させた場合にのみ、貧困が克服される旨発言した。(26日、タイムズ)
- ・23日、シャメンダ労働社会保障大臣は、グレンコア社が、昨今の資源価格の低下による打撃を背景に、モパニ鉱山の労働者約3800名を解雇する予定であることをザンビア政府に通告した旨明らかにした。(26日、ポスト)
- ・南アフリカは、ザンビアが南アの衛生基準を遵守しているとして、純粋ハチミツの南アフリカへの輸出を認めた。(28日、メール)
- ・30日、アフリカ緑の革命フォーラム(会期は4日間。ザンビアの開催は初)が開催予定であり、400名以上の参加が予測されている。(29日、タイムズ)

- ・格付会社ムーディーズは、ザンビアの格付を格下げした(当館注:同社からの発表は25日;政府債が「B1」から「B2」に格下げされた)。(30日, ポスト)